

第8節 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール運営事業

市内唯一の障害者スポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、地域や利用者のさまざまな状況に即した事業を行いました。運営の基本方針を「リハビリテーションサービスの向上」、「豊かな人生への支援」、「共生社会実現への取組」と定め、横浜市リハビリテーション事業団内の各部門との連携を基軸に、リハビリテーション・スポーツ及び文化事業を核とした各種プログラムの展開、多様な地域資源(横浜市体育協会、各種競技団体、民間企業等)との連携に基づいた事業を推進しました。

平成27年度は、第3期指定管理者の選定に向けて積極的に取り組んだ結果、引き続き今後5年間も指定管理者として施設の管理運営を行うこととなりました。

また、利用者サービスの更なる向上として、各施設の大規模工事や利用時間の変更を順次行うとともに、利便性をあげるため事業参加費の事前徴収と振込による手続きを実現しました。案内リーフレットについては、三か国語版を新たに作成しました。

スポーツ事業では、東京2020パラリンピックに向けた取組として、多くの方々に障害者のスポーツを理解していただくよう、競技用車椅子や車椅子バスケットボール競技の体験会等を行いました。また、横浜マラソンの寄附金を活用して、横浜市立の全小中学校に対するPR活動、ヨッテクにおけるパラリンピアントークショー、各種イベント時の障害者スポーツ体験会等を実施しました。

文化事業では、地域企業の協力を得て、障害のある方の書道展や、民間企業の協力による障害児の余暇活動充実のためのおもちゃ展示会等を開催し、より広く多くの方に参加していただき、さらに新たな展開に向けた共催事業も行うことができました。

聴覚障害者情報提供施設では、手話通訳等の派遣事業、聴覚障害者相談等の事業の充実に努めました。また、平成28年4月施行の障害者差別解消法に関わる横浜市新規事業については、横浜市及び関係団体との協議・調整を重ね、円滑な事業実施に向けての準備に取り組みました。

平成27年度の開館日数は346日で、施設利用者数は延べ453,135人(昨年度延べ449,774人)と昨年度に比べ増加し、1日平均約1,310人の利用がありました。8月には開館からの延べ利用者が900万人を突破し、セレモニーを実施しました。

1 施設運営事業

(1) 運営方針

障害者等のグループ(団体)または個人による自主的なスポーツ・文化・レクリエーション活動を支援するため、各スポーツ・文化施設の貸出と管理を行いました。

広報については、港北区役所掲示板や広報紙「ラポラポ」、インターネット等をとおして、ラポールの事業を紹介し、障害者の社会参加の促進を図りました。

(2) 平成27年度における重点的な取組

重点的な取組については、次のとおり実施しました。

ア 安全で快適な施設運営の基盤整備

利用者や各団体も参加した実践的な防災・消防訓練を定例的に実施することで、不測の事態にも冷静で的確な対応ができるよう、職員の危機管理意識を高めました。

また、開館より 20 年以上が経過した施設の老朽化に対して、27 年度はメインアリーナの天井修繕、プールろ過器とシアターの舞台電源装置等の入れ替えといった大規模工事を行いました。

イ 利用者サービスの向上

利用者の意見を随時取り入れながら、サービスの向上を念頭に施設運営を行いました。開館時間における昼及び夕方の施設休止時間については、ニーズをふまえ利用時間の変更を各施設で順次実施しました。

「ハマピック」参加費については、事前徴収を行い、振込による手続きを実現しました。また、総合受付前のモニターを使用し、スポーツ・文化教室やイベント、大会、報告、お知らせ等の最新情報を放映し情報提供を図りました。

ウ 経営感覚を持った管理・運営と利用人員増

施設の運営にあたって利用者のサービス向上を前提に効率的な執行を行い、利用人員増への取組を行いました。

また「市内障害福祉関係団体優先予約」について、整理と確認・周知をすることで、市内の障害者のサークル等の活動場所の提供に便宜を図り、利用人員の伸びに結びつけることができました。

エ 広報事業の充実

港北区役所内の掲示版にラポール(本事業団)専用コーナーを引き続き設置し、お知らせやイベント情報を掲示しました。また、ユニバーサルデザインを取り入れた広報紙「ラポラポ」を毎月発行・配布し、認知度を高めるため発送先等についての見直しを図りました。「ラポラポ増刊号」では、全国障害者スポーツ大会の横浜選手団の結果報告を行い、大会期間中はロビーにて大会競技の速報を掲示しました。

さらに、インターネットを活用して定期的に各種の情報を発信しました。

2 スポーツ振興事業

(1) 運営方針

「みんな笑顔！」の理想を実現するため、「重度支援」「自立支援」「地域支援」を基本的な指針としながら、「フィールドは横浜市域！」を意識した事業を展開しました。

(2) 平成 27 年度における重点的な取組

ア 障害者のスポーツ振興

障害者のスポーツに対する理解を進めるため、紹介ビデオと障害者スポーツ体験会の案内用チラシを作成し、市内の全小中学校へ配布しました。

横浜マラソンや世界パラトラアスロン等の大規模イベントに協力すると共に、イベント内で障害者スポーツ体験会を展開し、多くの方々に障害者スポーツの啓蒙を図り

ました。

イ 健康・体力づくりとリハビリテーション

リハセンター発達支援部と連携し、成人期に入った肢体不自由者のスポーツ教室を開催しました。

国立身体障害者リハビリテーションセンターの進める「障害者のための健康づくりモデル事業」と連動し、リハセンターとも連携しながら生活習慣の改善等を目的とした教室を実施しました。

ウ 障害者のスポーツを支える人材の育成

スポーツ施設の運営を担う非常勤職員に対し、障害への理解を深めるための研修や、救急救命の実技等を行いました。

横浜市体育協会等に所属し、既に指導者として活動している方々へ、障害の理解や基本的な対応方法について研修を実施しました。

将来的に、スポーツ活動のボランティアやラポールの非常勤職員等としての活動が期待できる大学や専門学校に対して、授業の一環として横浜市における障害者スポーツの状況を説明する機会を設けました。

(3) 事業内容

ア スポーツ相談・健康相談・栄養相談・医事相談

新たにラポールを利用する人や健康に不安がある人に対し、各種相談を設定し、教室や施設利用方法の紹介、さらに個別指導への導入を行いました。また、必要に応じて主治医や担当セラピストへの照会などを行い、利用者が適切なプログラムへ速やかに参加できるよう、スクリーニング機能等を果たしました。

イ リハビリテーション・スポーツ

医学的リハビリテーションと社会リハビリテーションの中間に位置するリハビリテーション・スポーツを、ラポールにおけるスポーツ指導の中核と位置づけ、リハセンターと連携し、適切なスポーツ導入を図りました。

<リハビリテーション・スポーツ>

プログラム	内 容	回数	参加者数
各種相談	スポーツ相談や健康相談等	538回	538人
リハ・スポーツ教室(学齢)	学齢発達障害児を対象とする教室	15回	127人
リハ・スポーツ教室(高次脳)	高次脳機能障害者を対象とする教室 やフォローアップ	41回	1,169人
リハ・スポーツ教室 ¹⁾ (リハセンター連携プログラム)	リハセンターと連携した成人期の肢体不自由者に対するグループ指導	19回	224人
健康づくりモデル事業 (リハセンター連携プログラム)	リハセンターと連携した、障害者の健康づくりモデル事業	24回	82人
個別指導	障害に応じたマンツーマン指導	961回	961人

学齢障害児支援	学齢障害児のスポーツ体験	45回	394人
旅リハ教室	旅リハの参加に向けた教室等	4回	65人
体力診断（体力測定）	リハ・スポ教室（成人）の参加者を主な対象とする体力測定	2回	83人
合 計（昨年度） 3,643人（3,396人）			

*1) リハセンターの発達支援部と連携し、脳性麻痺を中心とする肢体不自由のケースに対し、定期的にラポールで活動する機会をつくり、仲間づくりと共に活動的な生活への支援を行いました。



リハセンターと連携した成人期肢体不自由者のスポーツを通じたグループ活動

ウ スポーツ・レクリエーション

各種スポーツ教室では、リハビリテーション・スポーツとの有機的な連携のもと、生涯スポーツ活動の定着に向けた指導を行いました。

各種目教室の充実、各競技協会・大学・プロスポーツチーム等との連携により競技力向上を図る一方で、レクリエーションレベルの利用者が楽しく安全にスポーツを続けられる環境の整備を進めました。

<スポーツ・レクリエーション教室>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球教室（初心者・初級者）	卓球の初心者・初級者の教室	22回	297人
卓球教室（中級者）	卓球の中級者を対象とする教室	22回	544人
卓球教室（上級者）	卓球の上級者を対象とする教室	22回	292人
水泳教室（はじめてプール）	水泳の初心者を対象とする教室	19回	61人
水泳教室（らくらく水泳）	水泳の初級者を対象とする教室	30回	431人
水泳教室（上級）	水泳の上級者を対象とする教室	30回	268人
水泳教室（選手クラス）	水泳の競技選手を対象とする教室	17回	479人

ボウリング競技 (アスリート養成講座)	ボウリングの上級者対象の教室	12回	80人
ジュニアダンス教室	発達障害の学齢女子を対象とする ダンス教室	28回	336人
横浜 F・マリノス futuro	マリノスと協働で開催している知的 障害者のサッカー教室	37回	2,029人
アウトドアスポーツ教室	ヨットの体験乗艇を行う教室	3回	16人
合 計 (昨年度)		4,833人 ¹⁾	(5,193人)

*1)26年度と比較して、360人ほど減少しているのは、プールやメインアリーナ等の改修工事を行ったため、水泳教室や卓球教室の開催を一部中止とした結果です。

<スポーツ・レクリエーションの時間>

プログラム	内 容	回数	参加者数
フライングディスクの時間	フライングディスクを楽しむ時間	15回	450人
オリジナルスポーツの時間	ラポールで独自に開発したビンゴボ ールやターゲットボッチャ等のスポ ーツを楽しむ時間	48回	827人
卓球の時間	卓球を楽しむ時間	13回	310人
ボッチャの時間	ボッチャを楽しむ時間	9回	65人
合 計 (昨年度)		1,652人	(1,856人)

エ スポーツ大会・交流イベント

障害者のスポーツの普及振興及び競技力向上を目的に「ハマピック」を行いました。

「ハマピック」の結果に基づいて全国障害者スポーツ大会への派遣選手を選考し、10月に和歌山県で行われた本大会へ選手を派遣しました。なお、代表となった選手には本大会までの間、強化練習を実施し、競技力の向上を図りました。

スポーツフェスタとして、「水泳の日」「ボッチャの日」「ボウリングの日」「バスケットボールの日」「サッカーの日」「卓球の日」「フライングディスクの日」を開催し、健常者を含めた各種目の愛好者間の交流を図ると共に、ハマピック、全国大会へとつながる取組を進めました。

<第20回ハマピック>

プログラム	内 容 ¹⁾	回数	参加者数
アーチェリー	身体障害・内部障害を対象とした アーチェリー競技 (4月12日)	1回	7人

ボウリング	知的障害・精神障害を対象としたボウリング競技 (4月12日:港北とうきゅうボウル)	1回	66人
卓球 (STT 含む)	身体障害、知的障害、精神障害、内部障害を対象とした卓球競技 (4月19日)	1回	88人
水泳	身体障害、知的障害、精神障害、内部障害を対象とした水泳競技 (4月26日)	1回	169人
フライングディスク	身体障害、知的障害、精神障害、内部障害を対象としたフライングディスク競技 (4月29日:新横浜公園投てき練習場)	1回	59人
陸上	身体障害、知的障害、精神障害、内部障害を対象とした陸上競技 (5月6日:三ツ沢公園陸上競技場)	1回	441人
バスケットボール	知的障害を対象としたバスケットボール競技 (9月19日)	1回	170人
ソフトボール	知的障害を対象としたソフトボール競技 ¹⁾	—	—
バレーボール	知的障害を対象としたバレーボール競技 (11月7日)	1回	80人
サッカー	知的障害を対象としたサッカー競技 (12月13日:しんよこフットボールパーク)	1回	104人
合 計 (昨年度)		1,184人 (1,214人)	

*1) エントリーチームが1チームのみで、試合が成立しませんでした。

<スポーツ・フェスタ>

プログラム	内 容	回数	参加者数
水泳の日	どなたでも参加が可能な水泳の記録会 (7月5日)	1回	217人
バスケットボールの日	どなたでも参加が可能なバスケットボールの競技会 (8月2日)	1回	93人
ボウリングの日	障害のある方と介護者、家族を対象とした記録会 (8月23日、1月24日、2月7日)	3回	96人

卓球の日	どなたでも参加が可能な卓球の競技会（9月13日）	1回	94人
フライングディスクの日 ¹⁾	どなたでも参加が可能なフライングディスクの競技会（11月29日）	1回	108人
ボッチャの日	どなたでも参加が可能なボッチャの競技会（2月21日）	1回	132人
サッカーの日	どなたでも参加が可能なサッカーの競技会（3月26日）	1回	116人
合 計（昨年度）		856人（1,028人） ¹⁾	

1) 26年度と比較して、約170人ほど減少しているのは「水泳の日」が他の水泳大会と重なったためです。（昨年度の「水泳の日」参加者は430人）

<各種リーグ戦や記録会>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球競技会	卓球やサウンドテーブルテニスの競技力向上を目的とした競技会	1回	47人
卓球交流会	卓球やサウンドテーブルテニスを広く楽しむための交流会	1回	38人
ボッチャ交流戦	ボッチャの競技力向上を目的とした競技会	5回	130人
フライングディスク記録会	フライングディスクの競技力向上を目的とした記録会	2回	69人
ボウリング記録会	ボウリングの競技力向上を目的とした記録会	8回	150人
全国大会強化練習	横浜市代表選手を対象に競技力の向上を図る練習会	43回	328人
合 計（昨年度）		762人（682人）	

<第15回全国障害者スポーツ大会の実績>

期 間：平成27年10月24日～10月26日

開 催 地：和歌山県

派遣人数：選手65人・役員40人の合計105人

成 績：金=41個、銀=18個、銅=8個（大会新記録及びタイ記録10）

メダル獲得率：全国第3位 金メダル獲得率：第2位¹⁾

*1)メダル獲得率及び金メダル獲得率の各順位は、47都道府県と20政令市の全67チームにおける結果です。

オ 人材育成

今後、障害者のスポーツを振興するためには様々な人材育成が重要と考え、これまで以上に積極的な取組を行いました。特に、障害者のスポーツを知っていただくことが大事であるという視点から、理解を深めるための体験会等の充実を図りました。また、実際の指導を担う方々に対しては、障害の特徴とその対応方法の習熟を図りました。

なお、ラポール開館当時から、横浜市の障害者スポーツ活動を支えて頂いている「横浜市障害者スポーツ指導者協議会（通称バセル）」と定期的な会合を持ちながら、400人を超える同協議会との連携について検討を進めました。

この結果、28年度からはこれまでよりも両者の関係を密接にして、横浜市における障害者スポーツの振興を進めていく方向で一致しました。

<各種研修>

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害者スポーツ・ボランティア養成入門講座	原則 15 歳以上、横浜市に在住のボランティア活動希望者を対象とした研修会（6月7日～10月17日）	7回	50人
初級障害者スポーツ指導員養成講座 ¹⁾	原則 18 歳以上、横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者かスポーツ・レクリエーションの指導を行っている方を対象とした研修会 (2月6日・7日・13日・14日)	4回	196人
ステップアップ研修会	横浜市域の障害者のスポーツ活動を支援するボランティアや指導者に必要な知識と技術の向上を図る	2回	29人
障害者スポーツ体験研修会	横浜市内の学校を中心に小中学生や教職員へ障害者スポーツの理解を深める体験研修会	14回	3,674人
地域スポーツ団体研修会	横浜市体育協会や地域ボランティア等を対象にした実践的な研修会	12回	279人
大学機関への障害者スポーツ研修会	横浜市内外の大学に対する講義・実習、卒論研究協力等による普及啓発	20回	392人
横浜市職員や企業向けの障害者スポーツ体験研修会	横浜市や企業の職員に対し、障害者スポーツの普及啓発を図る研修会	20回	451人
中学生・高校生職場体験	中学生や高校生がラポール各課の見学や体験を通し、職業について学ぶ研修	4回	25人

職場内研修	本事業団職員の新人研修とラポールスポーツ指導員のスキルアップ研修	7回	164人
非常勤職員研修	スポーツ施設非常勤職員向けのプールにおける救助法や手話研修等	21回	168人
合 計 (昨年度)		5,428人 (3,654人)	

1) 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が資格を付与します。ラポールは講座開講の認定を受け、実施しています。

カ 地域支援

身近な地域でスポーツを楽しみながら、健康づくりやリハビリテーションを進めることやスポーツ種目の普及、自主的な活動を始めたサークルのフォロー等を主な目的として、市内 18 区（中活センター、スポーツセンター、ケアプラザ等）で実施しました。種目では、ボッチャが 76 回（37.6%）と最も多く、次いで卓球が 48 回（23.8%）となり、以下、グラウンドゴルフ 24 回（11.9%）、体操／トレーニング 13 回（6.4%）の実施です。ボッチャや卓球が多いのは、過去数年続いている傾向です。要因としては、地域の対象者が高次脳機能障害のケース中心となってきたことが挙げられます。

また、地域における障害者のスポーツを充実させていくために、関係機関との連携を深めるネットワークの構築では、これまでに活動が定着してきた、瀬谷・金沢・鶴見・旭・戸塚の 5 区に加え、南区、青葉区、栄区でも取組を始めています。

また、少しずつではあるものの、難病系（関節リウマチ、ALS、脊髄小脳変性症等）の対象者に対する支援の依頼が増えてきました。

<地域支援>

プログラム	内 容	回数	参加者数
スポーツ教室	原則、地域の障害者を対象としたスポーツ教室	40回	571人
フォローアップ	ラポールのこれまでの取組により、地域で自主的なスポーツ活動を開始したサークル等に対する支援	42回	602人
研修	地域のボランティア等を対象とした研修	5回	204人
介護予防系プログラム	主に高齢者を対象としたプログラム	5回	110人
その他	原則として地域の障害者を対象とした出張スポーツ指導や、地域間交流スポーツ大会等の開催	110回	1,604人
合 計 (昨年度)		3,091人 (3,411人)	

キ 新しい取組

ボウリングルームの日曜日及び祝日の正午から午後1時の間も利用可能としました。利用者ニーズの高い時間帯であったため、多くの方々に楽しんで頂くと同時に、利用料収入の増加にもつながりました。

ハマピック運営については、参加費の当日徴収という受付方法が課題でした。これは参加選手にとっても負担となっていました。今回から事前徴収方式に改めました。28年度の大会申込は27年度中に始まるため、館内の券売機を入れ替えて事前徴収可能としました。また、併せて振込も可能とし、参加者の利便性を高めました。

「横浜マラソン2016」については、これまで以上に積極的に関わりました。大会で車いすの部を担当するボランティアを対象とした研修の実施や、大会前にパシフィコ横浜で開催した「横浜マラソン EXPO2016」では、競技用車椅子を約400人の方々に体験していただきました。



横浜マラソン EXPO2016



横浜マラソン2016 車いす2kmの部

3 文化振興事業

(1) 運営方針

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」や障害児のおもちゃ遊びを支援する「おもちゃ図書館」等、多様な文化体験ができる「観る・聴く・楽しむ」場を提供しました。また、文化活動を支援する人材の確保・育成に努めました。

(2) 平成27年度における重点的な取組

ア リハビリテーション・カルチャー（リハカル）の推進

主に片麻痺の方を対象に、リハセンターと連携し、専門職と共に生活自立に直結した内容の講座を実施しました。「片手でできる料理教室」や「失語症の方のための情報交換会」を中心に、毎月実施しました。

イ 中高生を対象にした文化アラカルト講座の充実

昨年度、試行的に開催した中高生対象の文化アラカルト講座に対するニーズが高かったことから、引き続き実施しました。料理や陶芸等の講座をとおして、参加者同士が自発的に交流を図り、自立への足掛かりとなるようなプログラムを実施しました。

ウ 障害者作品の展示巡回の拡充

障害者の作品への関心を高めるため、横浜市役所や市内の民間企業等で展示を行い、拡充に努めました。

エ 地域支援事業

移動おもちゃ図書館をはじめ、料理教室などの各種教室を開催しました。また、地域における障害者の文化活動の情報を集約し、「障害者の芸術活動支援モデル事業」として実施している特定非営利活動法人スローレーベルの相談事業等に情報提供し、連携先の拡充を図ることができました。

(3) 文化企画事業

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」、ラポールシアターでのコンサート等のほか、どなたでも気軽に参加できる「ラポールファクトリー」を開催しました。また、さまざまな文化教室・ワークショップ、陶芸作品の窯焼きを毎月実施しました。

ア 文化振興事業

障害者の文化活動の発表や地域交流の場である「横浜ラポール芸術市場」の開催にあたり、作品・出演者を広く公募し、日頃の活動が発表できる場としました。

10月26日～12月19日の期間中に、9のイベントプログラムを開催し、延べ3,523人が参加しました。

<横浜ラポール芸術市場>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ラポール美術展	障害のある方の絵画、写真、書、陶芸等約500点の作品の展示会。同時に「さをり織り」やプラスチックの板と樹脂を使ったネックレス作り等のワークショップを併催(10月26日～11月1日)	1回	2,095人
ドリーマーズステージ	障害のある方が参加しているゴスペルグループやアコースティックバンド等の4組による音楽をテーマにした合同発表会(11月3日)	1回	141人
DANCE-DANCE-BANG	障害のある方が参加している4グループによるダンスと和太鼓の発表会(11月8日)	1回	269人

ジョイフルフェスタ	障害のある方が参加している太鼓、コーラスやギターの弾き語りの4組による発表会(11月21日)	1回	137人
みんなdeパソコン	障害者のパソコン利用支援グループ「ドリームナビゲーター横浜」による、パソコンを使った缶バッジ作りやタブレット操作体験会 ※パソコン相談会と併催(11月28日)	1回	37人
野点	自主サークル「ラポールお茶の会」によるお点前披露(11月29日)	1回	90人
オータムステージ	障害のある方が参加している4グループによるダンスと音楽の発表会(11月29日)	1回	228人
ハートフルコンサート	障害者によるピアノ演奏や器楽合奏、ダンス等の10組の合同発表会(12月5日)	1回	193人
クリスマスステージ	障害者グループ3組による歌とダンスの合同発表会(12月19日)	1回	333人
合 計(昨年度) 3,523人(3,801人)			

イ 交流事業

さまざまな団体と共同企画し、障害の有無に関わらず、多くの人々が楽しめるイベントを幅広い文化領域にわたって開催しました。また、新横浜で行われる大規模なイベント「新横浜パフォーマンス」では、新横浜ライオンズクラブと共催し「ラポール寄席」を開催しました。

12のイベントプログラムを開催し、延べ2,794人の参加がありました。また、1階ロビーではラポールファクトリーを7回開催し、延べ398人の参加がありました。



芸術市場「オータムステージ」



ラポール美術展

<自主・共催企画事業>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ビッグ・アイアートプロジェクト 「共振×響心」展	国際障害者交流センターとの共催による、国内外の障害者アーティストの入選作品展 (5月13日～5月18日)	1回	1,363人
横浜交流音楽祭	アマチュアとプロ、さらに障害者の演奏家による市民手作りの音楽交流フェスティバル (5月30日)	1回	219人
福祉レクリエーションフォーラム in 横浜ラポール	全国福祉レクリエーション・ネットワーク、日本レクリエーション協会との共催による、障害者や高齢者のレクリエーション活動を支える方々を養成するフォーラムを開催 (6月13日・14日)	2回	117人
映画上映会 「普通に生きる」	静岡県富士市にある生活介護事業所「でらーと」の日常に、5年にわたってカメラを向け続けたドキュメンタリー映画を日本語字幕付きで実施 (6月14日)	1回	86人
心魂プロジェクト デリバリーミュージカル in ラポール	本事業団療育センター利用者を対象に、劇団四季や宝塚歌劇団出身者を中心としたパフォーマンスタウンによるデリバリーミュージカル公演(6月28日午後2回公演)	2回	239人
夏休み舞台のお仕事講座	ラポールシアターの音響・照明機器に実際に触れながら、舞台演習について体験する講座 (8月21日・22日)	2回	5人
字幕付き影絵劇公演 「長靴をはいたねこ」	横浜で活動中の老舗劇団「劇団かかし座」による影絵劇を低額料金にて実施。聴覚に障害がある方にも楽しめるように日本語字幕を付けて上演(10月4日)	1回	116人
アフタヌーンコンサート	シアター前スペースを活用したボランティア団体によるクラシックコンサート (11月7日、3月5日)	2回	69人
ラポール寄席	新横浜ライオンズクラブ共催により、障害者と地元市民の交流とパラリンピック支援を目的として実施(10月18日)	1回	182人
国際親善交流特別演奏会	日本音楽文化交流協会共催による、障害者を無料招待したクラシックコンサート (11月9日)	1回	247人

ビッグ・アイ 災害時要援護者・支 援者のための防災・ 減災講座	被災経験のある視聴覚障害者と救援活動を行 う支援者から、災害時における避難・支援活 動と防災・減災活動に役立つ知識等を学ぶ講 座国際障害者交流センターとの共催事業 (1月20日・21日)	2回	78人
字幕付き映画上映会 「超高速!参勤交代」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、 字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会 (3月6日)	1回	73人
合 計(昨年度) 2,794 人(3,031 人)			



字幕付き影絵劇「長靴をはいたねこ」



ラポール寄席

<ラポールファクトリー>

プログラム	回数	参加者数
ようこそ紙芝居の世界へ(手話通訳付き)	7回	47人
ロビーマジックショー		58人
歌&ヴァイオリン&チェロのトリオコンサート		57人
エンジェルハーブアンサンブルコンサート		62人
みんなで聴こう!クリスマスコンサート		68人
楽しいマジックとかわいい腹話術		55人
無礼面の音楽会		51人
合 計(昨年度) 398 人(434 人)		

※年間7回土曜日の昼休みに、ロビーを利用したパフォーマンスを開催しました。

ウ 協力事業

障害の有無に関わらず広がる催事に対し、他団体と連携し協力事業として実施しました。

プログラム	内 容	回数	参加者数
心魂プロジェクト 横浜公演	劇団四季出身者や宝塚歌劇団出身者を中心に活動している団体のミュージカル公演 (9月26日・27日・2月21日)	4回	280人
インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響 ダンスワークショップ	クリエイティブ・アート実行委員会による障害の有無に関係なく即興で創るダンスワークショップ (2月7日)	1回	37人
ユニバーサルツーリズムシンポジウム「障害者差別解消法で広がる世界」	株式会社 JTB 総合研究所との連携による、旅行業界から見た障害者差別解消法についてのシンポジウム	1回	272人
合 計 589人			

エ 自己啓発事業

障害者の創作活動や余暇活動の支援、日常生活の技術的な支援を図るため、対象者やテーマ別に各種の教室・体験会を開催しました。14の教室を開催し、延べ1,137人の参加がありました。陶芸窯焼成については、9回開催し、延べ333人の参加がありました。

<教室等>

プログラム	内 容	回数	参加者数
失語症の方のための会話の会	リハセンターの言語聴覚士と連携し、ST訓練を経た失語症者に対して、テーマに沿った座談会を支援するプログラム (月1回)	12回	122人
失語症の女性のための会話の会	リハセンターの言語聴覚士と連携し、ST訓練を経た失語症の女性に対して、テーマのある座談会を支援するプログラム (月1回)	12回	73人
失語症について学ぶ研修会	講師：リハセンター 言語聴覚士 小島真奈美・滝沢沙織・今井真紀 (6月13日)	1回	29人
ラポールバリアフリークッキング	外部講師による、栄養や料理についての知識を深め、簡単で健康的なメニューに取り組む料理教室 (4・6・9・11・1・2月開催)	6回	79人

キッチンスタジアム in ラポール	リハセンターの作業療法士・SW と連携し、 片麻痺の方を対象とする調理の工夫を盛り 込んだ月 1 回 3 カ月コースの料理教室 第 1 期：5 月～7 月、第 2 期：10 月～12 月	6 回	44 人
バリアフリークッキ ング in 南太田	「男女共同参画センター横浜」との共催で、 主に障害のある男性を対象にした出張料理 教室(12 月 5 日・12 日)	2 回	25 人
バリアフリークッキ ング in アートフォー ラムあざみ野	「男女共同参画センター横浜北」との共催 で、主に障害のある男性を対象にした出張 料理教室(3 月 5 日・12 日)	2 回	26 人
アートサロン	主に高校生以上の中途障害者を対象にした 平日実施の絵画教室	9 回	99 人
ものづくり広場	主に高校生以上の知的障害者を対象にした 絵画や工作が中心の教室	9 回	111 人
図工の時間	主に小学生以上の身体障害者を対象にした 絵画や造形作品を制作する教室	9 回	101 人
夏休み 親と子の工作教室	神奈川県建設一般労働組合横浜支部の協力に より、夏休み恒例の親子で楽しめる木工や タイル細工の教室(8 月 9 日)	1 回	49 人
陶芸 1 日体験教室 (初心・初級・親子)	片麻痺、視聴覚障害、障害児等年齢や障害の 特性に配慮した陶芸体験会	13 回	198 人
陶芸サロン	陶芸初心者のためのフォローアップとして サロン形式で実施	14 回	122 人
中高生のための 文化教室	障害のある中高生とその保護者を対象とし て「交流」と「自立」をテーマにした文化 体験(陶芸・料理)プログラム	3 回	59 人
合 計(昨年度) 1,137 人(1,348 人)			

<陶芸窯焼成>

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸窯焼成個人	個人利用者が対象の素焼きと本焼き(有料)	6 回	314 人
陶芸窯焼成大物	20cm 以上の大物作品の焼成	3 回	19 人
合 計(昨年度) 333 人(317 人)			

(4) おもちゃ図書館事業

おもちゃ図書館事業では、障害児が地域や家庭で遊びの幅を広げられるよう多様なおもちゃを保管し、遊びの場を提供するとともに、障害児及び障害児関連団体等を対象におもちゃ等の貸出を行いました。おもちゃ図書館の利用者数は 11,250 人(昨年度 10,027 人)で、そのうち団体利用は 733 人(昨年度 525 人)でした。

また、夏休み・春休み期間のおもちゃ展や工作教室、おもちゃ病院等の行事やボランティア研修会を実施し、延べ 3,147 人(昨年度 2,374 人)が参加しました。参加者数はカウントできませんが、中学生以上の方も気軽に遊べるよう、おもちゃ図書館前のロビーにゲームやパズル等を設置しています。

ア おもちゃ・紙芝居・書籍類の貸出

内 訳	貸出数 (昨年度)
個人貸出 (障害児・保護者等)	3,038 点(2,893 点) 1,325 人(1,279 人)
団体貸出 (療育機関・訓練会等)	2,333 点(2,758 点) 413 団体(504 団体)

イ 研修会の実施(サポーターバンク研修を兼ねる)

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害のある子の余暇活動・遊びにかかわる人のための研修会	「共遊玩具ってどんなおもちゃ？」 ～『違い』と『一緒』遊びのヒント～ 講師：吉田沙也加 (株) タカラトミー 社長室 CI・VI 共用品推進課	1 回	34 人

ウ 行事・イベント等の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
おもちゃ病院	個人や団体・ラポールの壊れたおもちゃ計 383 点をワイワイおもちゃドクターズ倶楽部のボランティアが修理	12 回	個人 84 人 団体 42 件
みんなのお楽しみ会	第 2 土曜日に実施する、お誕生月の児童のお祝いのための手遊びやマジック	10 回	164 人
工作ひろば	第 2 土曜日に実施する、年齢問わず参加できる簡単な工作の会	7 回	288 人
かるた展	新年にちなみ様々なかるたを展示 (1 月中)	1 回	— 3 階ロビー展示

わくわくボックス	クリスマスを中心に、ボランティアや演奏グループが中心となり開催する遊びの会 (12月12日)	1回	30人
四季の工作	貝殻や木の実等の自然素材を利用した工作教室 講師：黒川伸人(8月8日・11月7日)	2回	52人
おもちゃ場	電車や車のおもちゃと、室内用の砂場遊びの紹介・展示 協力：株式会社タカラトミー (8月19日～8月23日)	1回	1,460人
針金でつくろう！ あそぼう！	夏休み期間中の工作教室 講師：中根賢治(8月27日)	1回	8人
春のおもちゃ展 ～ハンドメイド& ハンドクラフト～	布の絵本や木のおもちゃなど、ボランティアや木工作家等の手作りのおもちゃの展示 (3月24日～3月27日)	1回	385人
ラポールの祭典	神奈川県内のおもちゃ図書館ボランティアによる遊びや工作教室(9月6日)	1回	600人
合 計(昨年度)		3,113人(2,342人)	

(5) 情報ネットワーク

パソコン等の情報端末をとおして、社会参加のための情報収集・提供やコミュニケーションの支援を行いました。

ア ホームページの運営

ラポールのイベント情報等を中心とした、ホームページのコンテンツ制作及び運営を行いました。また、館内の全施設の予約状況は運営日に毎日更新し、広報紙「ラポラポ」が閲覧できるページについては月1回の更新を実施しました。

【ホームページアドレス <http://www.yokohama-rf.jp/shisetsu/rapport/>】

・運営状況

年間総アクセス件数： 711,146件 (昨年度 736,971件)

イ 情報バリアフリー支援講座の開催

情報バリアフリーを進めるための講座等を行いました。

<情報バリアフリー支援講座等>

プログラム	内 容	回数	参加者数
パソコン・スマホ・タブレット相談会	パソコンボランティアの協力を得て、初心者を対象としたパソコンやスマートフォン、タブレットの購入・使用方法等に関する相談会とパソコン体験会	4回	84人
夏休みパソコンであそぼ	中高生を対象としてパソコンを使ったオリジナルカレンダーとキーホルダー作成等の講習会	1回	7人
合 計(昨年度) 91人(139人)			

(6) 地域支援(出張サービス)

地域における障害児・者の文化活動を推進・支援するため、市内の施設等で共催事業等を実施しました。昨年度より2事業増やした12の地域支援プログラムを開催し、障害のある方を対象とした事業を中心として延べ2,634人の参加がありました。

<地域支援>

プログラム	内 容	回数	参加者数
バリアフリークッキング in 南太田 [再掲]	「男女共同参画センター横浜」との共催で、主に障害のある男性を対象にした出張料理教室(12月5日・12日)	2回	25人
バリアフリークッキング in アートフォーラムあざみ野 [再掲]	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に障害のある男性を対象にした出張料理教室(3月5日・12日)	2回	26人
本事業団利用者作品展 at 横浜市役所	本事業団を利用している方たちの出張作品展を市役所の障害者週間イベントに合わせて実施(12月3日～10日)	1回	—
障害のある方の演奏会	市役所市民広間を利用した芸術市場出演者による演奏会(12月9日)	1回	—
テュフラインランドジャパン株式会社「障害のある方の書道展」	民間企業のロビーを利用した書道をテーマにした作品展(12月3日～1月29日)	1回	—

移動おもちゃ図書館 「あおばおもちゃの 広場」	「あおばおもちゃのひろば」より依頼を受け、青葉区社会福祉協議会との共催で、地域の障害児と健常児の交流を目的に実施しているおもちゃ広場の活動を支援(通年)	60回	1,664人
移動おもちゃ図書館 「にこてらす」	瀬谷区子育て支援拠点「にこてらす」より依頼を受け、同所が取り組む障害児支援「にこポンテ」へのおもちゃの搬入出を介した定期的な支援とラポール事業の紹介(通年)	49回	402人
移動おもちゃ図書館 「ヨッテク」	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2015にて、ラポールのおもちゃ図書館の活動を紹介(7月24日・25日)	1回	—
移動おもちゃ図書館 「港南センター」	「港南センター」より依頼を受け、同センターが開催する「センター祭」に出展してラポールの事業を紹介(10月31日)	1回	200人
福祉機器体験会 移動おもちゃ図書館 「三ツ境養護学校」	リハセンター研究開発課が実施している福祉機器体験会内で、瀬谷区三ツ境養護学校にてラポールの事業を紹介(2月14日)	1回	19人
プレヨッテク 移動おもちゃ図書館 「リハセンター」	プレヨッテク内において、移動おもちゃ図書館を実施(3月19日)	1回	11人
缶バッチ作成会& ぬり絵体験会	ヨッテク会場にて、パソコンを使った缶バッチ作成やタブレットによるぬり絵体験を開催(7月24日・25日)	2回	287人
合 計(昨年度) 2,634人(3,679人)			

(7) 季節行事

利用者に親しまれる館内の景観作りとして、自己啓発事業の教室で作られた美術作品を1階ロビーに展示するとともに、利用者の方々にも季節行事に参加していただきました。

5月は「こどもの日」と合わせてこいのぼりの飾り付けや兜の展示、7月の「七夕」では利用者に短冊へ願い事を書いていただき、地元の方からいただいた笹竹に飾り付けました。12月には「クリスマス」の装飾と作品展示を実施しました。

4 聴覚障害者情報提供施設事業

(1) 運営方針

国の定める「聴覚障害者情報提供施設」として、関係機関・団体や他都市の聴覚障害者情報提供施設と連携し、「手話通訳者・筆記通訳者派遣」・「聴覚障害者相談」・「ビデオライブラリー」・「視聴覚機器の貸出」等の指定管理事業を実施しました。

派遣事業においては、研修事業と連携した派遣調整を行い、幅広いニーズに対応できる通訳者層の拡大に努めました。相談事業では、リハセンター及び関係機関団体との連携により「聞こえの相談事業」の事業内容の充実に努めました。また、高齢ろう者(独居・夫婦世帯)への支援については、引き続き、訪問等の出張相談に積極的に取り組みました。

(2) 平成 27 年度における重点的な取組

ア 将来を見据えた手話通訳者体制の整備

年々増大する派遣ニーズに対し、横浜市と協議しながら安定的に対応できる手話通訳者体制の整備に努めました。

イ 要約筆記者体制の拡充

難聴者の社会参加の進展により、増大し専門化するニーズに対応可能な通訳者層(全国統一試験合格者)の拡大に努めました。

ウ 高齢ろう者(独居・夫婦世帯)への支援

引き続き、出張(訪問)による相談の拡充を図りました。

(3) 手話通訳者・筆記通訳者派遣事業

聴覚障害者及び音声または言語機能障害者が、社会生活上必要とする場合に手話通訳者または筆記通訳者を派遣し、意思の疎通を支援することにより、聴覚障害者等の福祉の増進を図ることを目的として事業を実施しました。

ア 平成 27 年度事業の概況

(ア) 派遣・紹介人数 10,688 人(手話通訳 8,807 人・筆記通訳 1,881 人)で、派遣・紹介人数としては過去最高でした。

(イ) その他、情報提供施設に来所された聴覚障害の方で、代理電話(電話通訳)を希望された延べ 382 人に対し、延べ 538 件の通訳を実施しました。

<手話・筆記通訳者別派遣・紹介人数>

通訳者の種類		派遣人数	紹介人数	合計	
手話通訳者	非常勤手話通訳者	30人	3,927人	157人	4,084人
	登録手話通訳者	118人	3,940人	753人	4,693人
	情報提供施設職員	8人	30人	0人	30人
	小計	156人	7,897人	910人	8,807人
登録筆記通訳者		84人	1,494人	387人	1,881人
合計(昨年度)		240人 (244)	9,391人 (9,018)	1,297人 (1,314)	10,688人 (10,332)

<内容別派遣・紹介人数>

通訳内容	手話通訳者		筆記通訳者		合 計	
	派遣	紹介	派遣	紹介	派遣	紹介
医療・保健に関すること	4,749	32	165	0	4,914	32
	4,781		165		4,946	
司法に関すること	43	25	5	2	48	27
	68		7		75	
教育・保育に関すること	836	25	46	24	882	49
	861		70		931	
労働・雇用に関すること	333	353	54	120	387	473
	686		174		860	
社会生活に関すること	1,141	27	49	0	1,190	27
	1,168		49		1,217	
自己啓発に関すること	256	3	42	241	298	244
	259		283		542	
福祉推進に関すること	528	445	1,129	0	1,657	445
	973		1,129		2,102	
聴覚障害者相談の通訳	11	0	4	0	15	0
	11		4		15	
合 計 (昨年度)	7,897 (7,634)	910 (995)	1,494 (1,384)	387 (319)	9,391 (9,018)	1,297 (1,314)
	8,807 (8,629)		1,881 (1,703)		10,688 (10,332)	

<公的派遣人数の内訳>

	手話通訳関係		筆記通訳関係	
	派遣数	割合	派遣数	割合
医療・保健に関すること	4,749	60.1%	165	11.0%
司法に関すること	43	0.6%	5	0.3%
教育・保育に関すること	836	10.6%	46	3.1%
労働・雇用に関すること	333	4.2%	54	3.6%
社会生活に関すること	1,141	14.5%	49	3.3%
自己啓発に関すること	256	3.2%	42	2.8%
福祉推進に関すること	528	6.7%	1,129	75.6%
聴覚障害者相談の通訳	11	0.1%	4	0.3%
合 計	7,897	100.0%	1,494	100.0%

- (ウ) 横浜市消防局に対し救急手話通訳者手配を、神奈川県警通訳センターに対し事件・事故の際の手話通訳者手配を、それぞれ次のとおり協力しました。

<救急手話通訳派遣事業での派遣対応した人数>(公的派遣)

通訳依頼時間	実績(昨年度)	備 考
派遣窓口時間内(9:30-17:00)	15 人(15)	
派遣窓口時間外(17:00-9:30)	20 人(18)	同事業に登録している通訳者 35 人
合 計	35 人(33)	

<神奈川県警通訳センターの事件・事故通訳関係の対応人数>(紹介)

通訳依頼時間	実績(昨年度)	備 考
派遣窓口時間内(9:30-17:00)	11 人(24)	
派遣窓口時間外(17:00-9:30)	3 人 (0)	同事業に登録している通訳者 29 人
合 計	14 人(24)	

- (エ) 横浜市民が市外で通訳者を必要とする場合は、当該市町村と連携・調整を行い、広域的な派遣ニーズにも対応しました。

<他都市との通訳者派遣調整>

	横浜から他都市に通訳の手配依頼をしたもの	他都市から横浜に通訳の手配依頼があったもの
医療・保健に関すること	8	27
司法に関すること	8	0
教育・保育に関すること	6	22
労働・雇用に関すること	31	3
社会生活に関すること	33	12
福祉推進に関すること	3	8
合計件数(昨年度)	89(65)	72(63)
事業所数(昨年度)	19(17)	19(15)

<キャンセル・変更等処理件数>

内 容	件数	説 明
通訳者が手配できなかった	5	前日窓口終了後や当日の依頼で派遣不可能等
依頼者からのキャンセル	356	取消・日程変更・主催行事中止・自然災害等
派遣対象外	9	派遣場所が市外で、内容が市外派遣対象外等
他都市の派遣窓口を紹介	110	広域の派遣として他都市窓口との連携等
通訳者の変更	6	通訳者の事情(病気等)で変更等
日 程 変 更	17	派遣日の変更
相 談 員	0	通訳派遣を利用せず、相談員が対応した
合 計	503	

- (㊦) 26年度に発足した手話通訳者及び要約筆記者派遣事業運営委員会については、7月に手話・要約合同で1回、2月に手話・要約で各1回の委員会を開催しました。構成団体は次のとおりです。

<横浜市手話通訳者及び要約筆記者派遣事業運営委員会・構成団体>

		団 体 名
手	話	(一社)横浜市聴覚障害者協会 横浜市中途失聴・難聴者協会 横浜市手話通訳者協会 横浜市障害者社会参加推進センター 横浜市 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設
要	約	横浜市中途失聴・難聴者協会 (一社)横浜市聴覚障害者協会 横浜市登録筆記通訳者協会 横浜市障害者社会参加推進センター 横浜市 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設

- (㊧) 他都市窓口との連携では、神奈川県及び川崎市との派遣窓口会議を1回実施し、27年度の神奈川県全域の派遣についての連携を確認しました。
- (㊨) 通訳者との会議・懇談では、非常勤手話通訳者業務調整会議を6回、手話通訳者事業連絡会、筆記通訳者事業連絡会を各1回実施しました。また、筆記通訳者現任研修会の指導を担う講師との会議を計2回開催しました。
- (㊩) 障害者差別解消法施行に関わる横浜市の新規事業（区役所への手話通訳配置・遠隔手話通訳）に関する手話通訳者対象の説明会を1回実施しました。

イ 研修事業

通訳者の研修事業では、自主研修として手話通訳者に対し、登録年次別・課題別・全体研修等を計23回実施し、非常勤及び中堅登録手話通訳者に対しては専門研修を計5回実施し、手話・筆記合同研修を2回実施しました。また、27年度より本事業団事業となった筆記通訳者研修（登録1年次研修：4回、登録者研修：手書き・パソコン各8回、合同1回 計21回）を実施したほか、要約筆記者登録試験対策として横浜市中途失聴・難聴者協会と連携し、フォローアップ研修（学科試験対策2回、実技3回）を実施しました。

(ア)自主研修：手話通訳者研修

a 登録手話通訳者1年次研修(対象者4人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月11日	オリエンテーション 派遣事例検討	4人	職員3人
2	5月18日	読みとり実技	4人	非常勤手話通訳者1人
3	6月15日	聞きとり実技	4人	非常勤手話通訳者1人、 横聴協1人
4	7月6日	各場面模擬通訳Ⅰ	4人	登録手話通訳者1人 横聴協1人
5	8月3日	各場面模擬通訳Ⅱ	4人	登録手話通訳者2人
6	9月7日	事例検討	4人	登録手話通訳者1人
7	2月1日	1年次研修まとめ	4人	職員2人

b 登録手話通訳者2年次研修(対象者7人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月25日	読みとり実技	7人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人
2	6月29日	聞き取り実技	7人	非常勤手話通訳者1人 横聴協1人
3	7月27日	模擬通訳	7人	非常勤手話通訳者2人
4	9月29日	事例討議・模擬通訳	7人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人 職員1人
5	10月27日	ビデオ事例検討・模擬通訳	6人	非常勤手話通訳者2人
6	11月16日	2年次研修まとめ	7人	職員2人

c 登録手話通訳者3年次研修(対象者9人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6月23日	相談事業と対人援助	8人	職員2人
2	8月25日	模擬通訳(労働場面)	8人	登録手話通訳者1人 横聴協1人
3	10月7日	問題解決のステップ	8人	世田谷福祉専門学校1人 職員1人
4	11月30日	3年次研修まとめ	6人	職員1人

d 課題別研修(対象者：登録手話通訳者)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6月27日	「事例検討」 デマンドコントロールスキームの実践	68人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人
2	10月10日	登録2・3年次 読みとり翻訳グループワーク	19人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人
3	11月28日	同時読みとりの実践	42人	登録手話通訳者1人

e 手話通訳者全体研修(対象者：全手話通訳者)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月16日	講義「手話通訳の理論と 実践～日本語から手話 ～」	93人	国立障害者リハビリテー ションセンター学院教官 1人
2	11月14日	講義「今、私たちに求め られるもの」	83人	日本手話通訳士協会会長 1人
3	2月6日	講義・実技「手話通訳者 の健康について」	80人	芝大門クリニック 事務 1人

f 横浜市手話通訳者専門研修(対象者：非常勤30人・登録手話通訳者59人)

回	実施日	内 容	参 加		講 師
			非常勤	登録者	
1	7月13日	事例検討	28人	37人	非常勤手話通訳者2人 職員2人
2	10月19日	終末期医療の現状と 支援者の関わり方	27人	40人	めぐみ在宅クリニ ック院長1人
3	11月9日	読みとり通訳の振り 返り	26人	—	職員2人
4	1月18日	取り調べにおける 通訳模擬	28人	34人	県警通訳センター 1人
5	2月17日	聴覚障害と精神障害を 併せ持つ人とのコミュ ニケーション	26人	—	帝京平成大学講師 1人

g 合同研修（対象者：全手話通訳者・筆記通訳者）

回	実施日	内容	参加		講師
			手話	筆記	
1	7月11日	講義「障害者制度改革と障害者差別解消法施行について」	92人	13人	日本身体障害者団体連合会1人
2	8月1日	講義「最前線の支援に学ぶ情報保障のあり方」	82人	14人	筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授1人

(イ)自主研修：筆記通訳者研修

a 登録1年次研修（対象者：パソコン11人）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	4月21日	派遣オリエンテーション 実技復習（連係入力）	11人	情提職員 登録筆記通訳者協会2人
2	5月11日	実技復習（前ロール）	10人	登録筆記通訳者協会2人
3	5月18日	実技復習（チームワーク）	10人	登録筆記通訳者協会2人
4	5月25日	実技復習（現場模擬）	11人	登録筆記通訳者協会2人

b 筆記通訳者研修（対象者：手書き60人、パソコン54人）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6月3日	課題発掘・表記の見直し	手書き28人 PC36人	登録筆記通訳者協会2人 登録筆記通訳者協会2人
2	7月1日	チームワーク実技 （養成講習会）	手書き21人 PC35人	登録筆記通訳者協会2人 登録筆記通訳者協会2人
3	9月2日	目的に応じた書き方・要約と整文	手書き28人 PC31人	登録筆記通訳者協会4人 登録筆記通訳者協会4人
4	10月7日	チームワーク実技 （コミュニケーション教室）	手書き23人 PC36人	登録筆記通訳者協会2人 登録筆記通訳者協会2人
5	11月4日	事例研修	手書き22人 PC32人	職員2人
6	12月2日	チームワーク実技 （ポイントを伝える）	手書き28人 PC36人	登録筆記通訳者協会2人 登録筆記通訳者協会2人
7	1月6日	資料の活用・講演会 実技	手書き20人 PC29人	登録筆記通訳者協会4人 登録筆記通訳者協会4人
8	2月3日	まとめ・復習	手書き24人 PC32人	登録筆記通訳者協会2人 登録筆記通訳者協会2人
9	8月5日	講演「デマンドコントロールスキーマ」	合同55人	国立障害者リハビリテーションセンター学院講師1人

(ウ) 派遣研修

職員の業務上のスキルアップを目的とし、次の研修にそれぞれ担当職員を派遣しました。

名 称	期日	場所	派遣者
全国要約筆記問題研究集会	6月13日～14日	福島県	職員1人
全聴情協コミュニケーション支援事業担当者研修会	7月8日～10日	京都府	職員1人
手話通訳者養成Ⅱリーダー養成研修会	6月19日～20日	山梨県	職員1人
手話通訳士専門研修会	3月9日～11日	国立障害者リハビリテーションセンター学院	職員1人 非常勤手話通訳者1人

(4) 聴覚障害者相談事業

聴覚障害者及び音声または言語機能障害者の日常生活の各種の相談に応じ、個々の実情に即した適切な処遇を図り、聴覚障害者等の福祉の向上に資することを目的として事業を実施しました。

高齢ろう者(独居・夫婦世帯)を含めた出張計画に基づき、訪問(自宅・入所施設・入院先等)による相談の拡充を図りました。また、聞こえや補聴器に関する専門相談「聞こえの相談事業」(※横浜市リハビリテーションセンター指定管理事業)については、聴覚障害者相談員とリハセンターの言語聴覚士と連携して相談を実施しています。

ア 平成27年度事業の概況

(ア) ラポールへの来所相談に加えて、来所が困難な高齢ろう者に対しては、聴覚障害者相談員が自宅等を訪問し、対象者の居住地の地域ケアプラザ等の事業所と連携しながら相談支援を行いました。このような連携を持つことで、介護保険サービス以外の生活上の困難さや医療面のケアの必要性等、対象者の抱える問題の掘り起こしにつながるとともに、関係機関の担当者等に聴覚障害やコミュニケーション支援を理解していただく機会にもなりました。

<相談内容>(面接相談)

相談内容	実件数		延べ件数	
	件数	割合	件数	割合
医療	48件	11.2%	98件	13.5%
職業	21件	4.9%	35件	4.8%
教育	8件	1.9%	11件	1.5%
住宅	38件	8.9%	55件	7.6%
生活	171件	40.0%	279件	38.5%
福祉	108件	25.2%	183件	25.3%
法律	18件	4.2%	43件	6%
聞こえの相談	16件	3.7%	20件	2.8%
合計 (昨年度)	428件 (408件)	100.0%	724件 (837件)	100.0%

<相談の場所>

面接場所	24年度	25年度	26年度	27年度
ラポール	550回	505回	601回	542回
小計	175回	150回	236回	182回
出張	訪問	81回	68回	139回
	同行	32回	32回	36回
	同席	47回	34回	60回
	ケース会議	15回	16回	1回
合計	725回	655回	837回	724回

<面接相談以外の対応>

聴覚障害者相談は面接相談を基本としますが、以前より面接以外の方法による相談(電話、FAX、eメール等)等についても対応しています。

内容	26年度	27年度
電話による相談	593件	580件
FAXによる相談	89件	298件
eメールによる相談	224件	105件
その他(郵便による相談、相談予約のための来所対応等)	82件	89件
合計	988件	1,072件

<相談者の状況>(障害別の内訳)

種 類		実 人 数		
聴 覚 障 害 者 (個 人)	ろ う 者	142 人	82.1%	75.9%
	難 聴 者	31 人	17.9%	16.6%
	小 計	173 人	100.0%	
健 聴 者 (個 人)		11 人		5.9%
機 関 ・ 団 体		3 人		1.6%
合 計		187 人		100.0%

<障害者(個人)の居住地域>

地 域 名	実人数		地 域 名	実人数		地 域 名	実人数	
鶴 見	22 人	12.7%	旭	16 人	9.3%	戸 塚	5 人	2.9%
神 奈 川	12 人	6.9%	磯 子	6 人	3.5%	栄	5 人	2.9%
西	3 人	1.7%	金 沢	4 人	2.3%	泉	5 人	2.9%
中	7 人	4.0%	港 北	12 人	6.9%	瀬 谷	5 人	2.9%
南	3 人	1.7%	緑	20 人	11.6%	市 外	0 人	0.0%
港 南	17 人	9.8%	青 葉	6 人	3.5%	合 計	173 人	100.0%
保 土 ケ 谷	16 人	9.3%	都 筑	9 人	5.2%			

- (イ) 「聞こえの相談事業」については、同事業の事務局として運営委員会(委員 9 人)を 2 回開催しました。
- (ロ) 関連事業である横浜市障害者社会参加推進センター主催の講座「聞こえと補聴器」にて事業の説明を行いました。
- (ハ) 関東ろうあ者相談員連絡会(年 4 回)、全国ろうあ者相談員研修会(青森県)に参加し、相談業務の一助としました。
- (ニ) 啓発関係の取組としては、主に次の対応を行いました。
- ・ 講演、事業 PR 等
 - 横浜市消防局人権研修、ケアプラザスタッフ研修(※横浜市聴覚障害者協会と連携)、老人福祉センター利用者向け講演会、神奈川ろうヘルパー連絡会かもめの会「浜の会」茶話会・横浜市中途失聴・難聴者協会例会にて福祉サービスに関する説明、横浜市立ろう特別支援学校学校高等部卒業前見学対応他
 - ・ その他
 - 相談事業及び通訳派遣事業の利用促進を図るため、年末年始のお知らせと併せて案内チラシを作成し、単身・高齢者世帯等に送付しました。

(5) ビデオライブラリー事業

聴覚障害者用に字幕を挿入したビデオ及び CS 障害者専用放送統一機構「目で聴くテレビ」提供番組、通訳者研修教材ビデオの自主制作を行い、字幕・手話入りビデオの貸出を行いました。また、福祉サービス等に関する手話動画を作成し、ホームページにて配信しました。

ア 平成 27 年度事業の概況

(ア) ライブラリーの制作では、次のとおり合計 57 作品を制作しました。映画上映会等の字幕制作については、字幕サークル「まじっく」の協力を得ました。

種 類	制作数	作 品 名 等	備 考
字幕付き映画 上映会等の 字幕制作	3 作品	字幕付き影絵「長靴をはいた猫」 字幕付き映画会「超高速!参勤交代」 字幕付き舞台「チリンのすず」	ラポール文化企画事業 との連携(字幕制作と 投影)
自主制作	2 作品	「地方の手話～横浜編～」 「つつうらうら～水道記念館～」	オリジナル(CS 障害者 専用放送統一機構番組 提供含む)
	3 作品	情報提供施設からのお知らせ 「ヨッテク案内」 「ラポールの祭典案内」 「臨時福祉給付金」	オリジナル(ホームペ ージ上で手話と字幕に よる情報発信)
	48 作品	通訳者研修講演 手話通訳者研修教材	通訳者のスキルアップ 教材
字幕・アフレコ 等制作	1 作品	本事業団研究開発課紹介映像	本事業団経営部との 連携

(イ) ビデオライブラリーの貸出は 350 本の実績でした。

(ロ) 全国聴覚障害者情報提供施設協議会主催のソフト制作担当職員研修会(群馬県)に参加し、業務の一助としました。また、第 3 回関東ブロックソフト制作担当職員研修会(川崎市聴覚障害者情報文化センター)の企画・運営を行いました。

(6) 視聴覚機器貸出事業

聴覚障害者団体や聴覚障害者を支援するサークル等に視聴覚機器の貸出を行いました。機器点検は年 10 回実施しました。

内 訳		在庫数	件 数
O	H P	3	1
ス	ク リ ー ン	7	176
磁	気 ル ー プ	2	13
液	晶 プ ロ ジ ェ ク タ ー	2	131
テ	ー プ レ コ ー ダ ー	3	64
ビ	デ オ カ メ ラ	1	26
O	H C + プ ロ ジ ェ ク タ ー	5	177
V	H S + D V D フ ル ー レ イ テ ィ ス ク レ コ ー タ ー	1	54
パ	ソ コ ン 文 字 通 訳 用 機 器	4	353
パ	ソ コ ン 文 字 通 訳 用 機 器 個 人 用	2	118
合 計 (昨年度)			1,113 (858)

(7) その他の事業

ア 広報事業

関係機関・団体及び通訳者に対して聴覚障害者情報提供施設事業を紹介するため、機関紙「横浜ウエーブ」を年6回、各600部発行しました。写真を入れ、文字の大きさを統一する等、見やすいようにレイアウトを変更しました。また、ラポールのホームページにも掲載しました。

イ 頸肩腕特殊健康診断

非常勤手話通訳者、登録通訳者(月平均5件以上稼働)及び情報提供施設職員については7月と1月に直接検診を実施、登録手話・筆記通訳者全員には年1回問診票による予備検診を実施し、236人が受診しました。予備検診の結果、直接検診が必要な通訳者は7月に受診しました。また、結果により医師から2回目の検診が必要と判断された場合は、必ず受診してもらうこととしました。

<直接検診結果>

種 類	回	A	B1	B2	B3	C	計	判定基準
非常勤手話 通訳者	1	29	1	0	0	0	30	A :異常ありません B1 :疲労回復に心がけましょう B2 :働き方の見直しと改善を要します B3 :治療と業務軽減を要します C :休業治療を要します (日本産業衛生学会頸肩腕障害研究会)
	2	28	2	0	0	0	30	
登録手話・ 筆記通訳者	1	38	4	0	0	0	42	
	2	32	1	0	0	0	33	
情報提供 施設職員	1	7	1	1	0	0	9	
	2	5	1	2	0	0	8	

ウ 全国聴覚障害者情報提供施設協議会等との連携

第11回聴覚障害者情報提供施設総会及び大会(山口県)、関東ブロック会議(山梨県)に参加しました。また、他の聴覚障害者情報提供施設と連携し、CS 障害者専用放送統一機構に番組を提供しました。

エ 関係機関・団体との連携

- ・(一社)横浜市聴覚障害者協会(以下：横聴協)関係

横聴協が実施する手話奉仕員・通訳者養成事業に関する次の会議等に、関係団体とともに出席し、協議・協力を行いました。

会議名	回数等
手話(養成)運営委員会	計 11 回
手話養成講師会	計 4 回
手話養成講師研修会	計 5 回
横浜市手話通訳者登録試験(統一試験)	前日準備、当日運営協力、審査会準備作業等
同 試験委員会	計 4 回
同 審査会、事前説明会	計 3 回
28 年度手話養成講習会説明・選考会	計 4 回

- ・横浜市中途失聴・難聴者協会(以下：浜難聴)関係

浜難聴が実施する要約筆記者養成事業に関する会議等に、関係団体とともに出席し、協議・協力を行いました。

会議名	回数等
要約筆記者養成に関する検討	計 4 回
横浜市要約筆記者登録試験(統一試験)	前日準備、当日運営協力等
同 試験委員会	計 4 回
28 年度要約筆記者養成講習会説明・選考会	計 1 回

オ 視察・実習対応等

- ・実習対応：国立障害者リハビリテーションセンター学院 2 年生
- ・視察、見学：秋田県議会議員、国立障害者リハビリテーションセンター学院、横浜市立聾特別支援学校教員、神奈川県保健福祉局（神奈川県手話言語条例関係）、中川中学校、樽町中学校（職場体験）等に対応しました。

カ 行事等への出席

- ・式典来賓登壇、講師対応等

横浜市聴覚障害者の集い、神奈川県ろうあ者大会、横浜市聴覚障害者新年のつどい(以上来賓登壇)、横浜市手話通訳者養成講習会、(以下再掲)講座「聞こえと補聴器」、横浜市消防局人権研修、ケアプラザスタッフ研修（※横浜市聴覚障害者協会と連携）、老人福祉センター利用者向け講演会、神奈川県ろうヘルパー連絡会かもめの会「浜の会」茶話会及び横浜市中途失聴・難聴者協会例会にて福祉サービスに関する説明、横浜市立ろう特別支援学校高等部卒業前見学対応等に対応しました。

5 広報事業

ラポールの利用を促進し、障害者の社会参加及び障害者とその他の市民相互の交流を図るため、次のとおり実施しました。

(1) ラポール催し物案内「ラポラポ」の発行

催し物案内「ラポラポ」を毎月 5,300 部発行し、行政機関、地域活動ホーム等の障害児・者施設をはじめ、障害者関係団体約 450 か所に配布する他、市営地下鉄 PR ボックスによる配架箇所を 1 駅追加し、新横浜、あざみ野、日吉等乗降客数の多い 5 駅としました。また、全国障害者スポーツ大会の横浜選手団の結果報告として「ラポラポ増刊号」を発行しました。

さらに「ラポラポ」拡大版の作成や、読み上げ装置(スピーチオ)を総合受付に設置することで、視覚に障害のある方や高齢者に対しても情報提供の充実を図っています。

(2) 事業概要作成

(3) 施設案内リーフレット三か国語版作成

施設案内リーフレットについて、新たに英語版・中国語版・韓国語版を作成し、ラポールホームページにも掲載しました。

(4) 視察・見学者への施設案内

件数：55 件 (昨年度 33 件)

人数：767 人 (昨年度 529 人)

(5) インターネットによる広報

ホームページを活用し、広く施設情報を紹介しました。また、横浜市の「横浜カレンダー (イベント情報検索システム)」や、新たに無料のイベント掲載サイトを活用して、スポーツ・文化事業の教室情報やお知らせ等を定期的に発信しました。

(6) 「ラポールの祭典」実施

横浜市立小机小学校マーチングバンドによるオープニングセレモニーから始まり、ウィルチェアラグビー、乗馬体験、おもちゃの広場、手話教室等、約 20 に及ぶイベントを実施しました。

実施日：9月6日

来場者数：3,531 人

6 その他

各種研修・訓練等の実施により、施設の円滑な運営や安全管理を進めるとともに職員の業務に対する意識の向上に努めました。

(1) 職員研修

障害者の多様化するニーズに的確に対応するため、職員一人ひとりの育成が非常に重要となっています。ラポールでは人材育成を目的とした研修を積極的に実施し、知識や対応力を高めています。利用者への対応や施設の安全管理等を目的とした職員及び非常勤職員を対象に行った研修は次のとおりです。

<職員研修>

研修名	回数	参加者数
個人情報保護に関する研修	随時	全職員(含委託業者)
救急救命研修会(7月21日午前・午後)	2回	45人
人権研修(2月16日)	1回	73人
スポーツ施設内救助訓練(非常勤職員対象)	8回	延べ37人
手話研修(非常勤職員対象)	10回	延べ73人

(2) 防災対策

ラポールは障害者を中心とした市民開放施設であり、災害時の被害を最小限とするため、日ごろから職員をはじめ館内の障害者団体職員や委託先業者等も含め、防災に対する共通認識を持ち、災害発生時には情報を迅速に収集するとともに初期消火・利用者の避難誘導等に努める訓練を行いました。

<自衛消防組織の編成及び任務>

自衛

消防隊長 副隊長 防災盤監視
(館長)―(副館長)―(警備)

- 安全防衛班：館内設備の確認
(設備)
- 救護班：怪我人の処置
(受付看護師)
- 通報連絡班：消防機関への連絡、館内放送
(管理・文化事業課長)
- 初期消火班：消火器等による初期消火活動
(スポーツ事業課長)
- 避難誘導班①<地下・1階>：館内利用者の避難誘導
(スポーツ事業課長)
- 避難誘導班②<2階>：館内利用者の避難誘導
(スポーツ事業課長)
- 避難誘導班③<3階>：館内利用者の避難誘導
(聴覚障害支援課長)

<消防訓練の実施状況>

実施日	内 容
5月26日	地震発生を想定したラポール館内での防災訓練
10月20日	地震及び火災を想定したリハセンター・横浜市保健医療センター及びラポールによる3施設合同の防災訓練

(3) 運営委員会の開催

ラポールの運営に障害者等利用者の意見を反映するため、関係者で構成する運営委員会を開催しました。

開催状況：年2回(6月24日・12月2日)

(4) 施設利用状況

障害者を優先的に施設の貸出を行い、その状況については次のとおりです。

ア 利用区分による利用状況

	利 用 者 数		昨年度
個人利用数	178,371 人	(100.0%)	177,400 人
障害者	124,167 人	(69.6%)	126,201 人
介護人等	35,478 人	(19.9%)	32,812 人
一般	18,726 人	(10.5%)	18,387 人
団体利用数	274,764 人 (7,308 団体)	(100.0%)	272,374 人 (7,494 団体)
障害者	99,436 人	(36.2%)	100,877 人
介護人等	42,920 人	(15.6%)	46,489 人
一般	132,408 人	48.2%)	125,008 人
合 計	453,135 人 (1 日平均 1,309.6 人)		449,774 人

イ 障害別による利用状況(個人利用の内訳)

内 訳	利 用 者 数		昨年度
肢体不自由	66,621 人	(53.7%)	72,396 人
知的障害	29,039 人	(23.4%)	26,491 人
精神障害	9,942 人	(8.0%)	8,219 人
視覚障害	4,535 人	(3.7%)	3,989 人
内部機能障害	4,886 人	(3.9%)	5,321 人
重複障害	5,628 人	(4.5%)	5,839 人
聴覚障害	3,516 人	(2.8%)	3,946 人
合 計	124,167 人 (100.0%)		126,201 人

ウ 施設別区分による利用状況

	利 用 者 数	昨年度
ス ポ ー ツ 施 設	262,946 人 (100.0%)	271,521 人
プール	62,444 人 (23.7%)	58,429 人
メインアリーナ	64,082 人 (24.4%)	76,196 人
フィットネスルーム	61,419 人 (23.4%)	61,465 人
サブアリーナ	26,205 人 (10.0%)	30,603 人
屋外グラウンド	15,975 人 (6.1%)	14,772 人
ボウリングルーム	14,755 人 (5.6%)	13,824 人
地下グラウンド	11,367 人 (4.3%)	9,953 人
テニスコート	6,699 人 (2.5%)	6,279 人
文 化 施 設	190,188 人 (100.0%)	178,253 人
ラポールシアター	46,995 人 (24.0%)	47,249 人
大会議室	36,537 人 (19.0%)	33,976 人
ラポールボックス	40,031 人 (21.0%)	33,277 人
ラポール座	21,998 人 (11.5%)	19,366 人
和室	12,338 人 (8.0%)	14,763 人
創作工房	10,018 人 (6.0%)	10,748 人
小会議室	10,929 人 (5.0%)	8,806 人
おもちゃ図書館	11,250 人 (5.5%)	10,027 人
聴覚障害者情報提供施設 ¹⁾	92 人 (0.0%)	41 人

1) 聴覚障害者用字幕付きビデオ貸出人数